

# 北海道シェイクアウトの実施について

浦幌町では、北海道シェイクアウトへの参加を呼びかけております。  
各職場、学校などの単位でのご参加をお願いします。

## 2015. 9. 1 (火) 午前10時～

シェイクアウトとは、「防災安全行動」の訓練です。広範囲に災害が発生すると24時間以内に救援の手が届くことは厳しくなります。まず「自分自身を守る」次に「周囲の人を助ける」ことが生き抜くために欠かせません。どう自分を守るのか、どう周囲の人を助けるのか、危機意識・防災意識を持つことが大切です。この訓練は、地震を想定して参加者が一斉に行動するという形の訓練です。参加者はインターネットなどを通じて防災についての知識を深め、同じ日時にそれぞれの場所で一斉に安全行動（安全行動の1-2-3）を行います。

### (安全行動の1-2-3)



- ①ドロップ 揺れに倒される前に姿勢を低く！
- ②カバー 手や腕で頭や首を守って！
- ③ホールドオン 揺れが収まるまでじっとして！

携帯電話によると登録には、下記  
QRコードをご利用ください。



<http://www.shakeout.jp>

### ～訓練の内容～

日 時	平成27年9月1日(火) 午前10時00分
対 象 者	北海道在住の個人及び団体（学校、企業等）
想 定（概要）	平成27年9月1日(火)午前10時、北海道日本海沖を震源とする大規模な地震が発生し、日本海沿岸南部及び日本海沿岸北部に大津波警報等が発令された。
参加費・参加方法	1. 参加費は、無料です。 2. 参加方法は、専用Webサイト ( <a href="http://www.shakeout.jp">http://www.shakeout.jp</a> ) にアクセスし、申込みフォームから登録してください。 3. 専用の携帯アプリをご活用ください。（一部の機種では使用できない場合があります。）
内 容	訓練方法 専用の携帯アプリを活用し（アプリの活用ができない方などは訓練時間になりましたら、地震の揺れを想像してください。）、約1分間、身を守る行動をその場で行ってください。実際の地震を想定するためにも、なるべく身近な人に声かけをしていただき、周囲の人と一緒に安全行動をとってください。（登録先からの連絡はありません。） 身を守る方法として、上記安全行動の1-2-3を実施してください。 また、基本行動以外に避難、安否確認、情報収集・伝達、人命救助訓練など、その他の自主訓練の計画がある場合は、引き続き実施してください。

ご不明な点については、役場総務課管財防災係(TEL015-576-2111)にお問い合わせください。

# 北海道シェイクアウト2015地震防災訓練アプリの御案内

本訓練には地震防災訓練アプリが使用できます。

本アプリをダウンロードして、訓練登録用のQRコードまたは手動で訓練情報を登録いただくと、北海道シェイクアウト訓練当日の平成27年9月1日（火）午前10時に緊急地震速報の専用ブザー音が鳴ります。

ブザー音をきっかけに避難行動をとる訓練を実施出来ますので是非ご活用下さい。

## ① 地震防災訓練アプリのダウンロード

(1) Androidの方はこちら

■Android版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.nttdocomo.android.bousaikunren>



(2) iPhoneの方はこちら

■iPhone版

<https://itunes.apple.com/jp/app/id892289370?mt=8>



↓ アプリダウンロード後、訓練情報を登録して下さい。

## ② 訓練情報のダウンロード

(1) このQRコードを地震防災訓練アプリで読み込んで下さい。



(2) QRコードで登録できない場合は手動登録で下記の情報を入力して下さい。

【訓練名】北海道シェイクアウト

【訓練日時】2015年9月1日（火）  
10時00分

【訓練ID】150006

## ③ 訓練の実施

訓練の日時になると専用のブザー音が鳴動します。  
音が聞こえたら、避難行動をとる訓練を行います。  
(プラスワンで避難訓練等の自主訓練計画を実施。)



(提供 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議)

※操作方法等は地震防災訓練アプリ HP をご覧下さい。

[https://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/areamail/earthquake\\_warning/disaster\\_prevention/](https://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/areamail/earthquake_warning/disaster_prevention/)



松本北海道地域防災マスターの

## コラム 松本塾

東日本大震災を期に、防災・減災に対する知識の普及活動が重要との認識から、地域防災のリーダーとなりうる資格として「北海道地域防災マスター」が創設され、町内在住の松本英俊さんが認定されております。松本さんは元消防職員という経歴から、在職中の知識と経験を生かした防災学習を行っていただいております、小学校、寿大学、町の防災訓練などにご活躍いただいております。

日ごろの学習内容などを、シリーズでご紹介いたします。

### 第1回 広尾町の地震津波避難訓練を視察して

一昨年(2014年)の3月、広尾町で防災訓練があると聞いて、厚内の関井さん、十勝太の小山内さんと三人で視察に行くことになった。

全町挙げての防災訓練で、その中でも特に音調津地域は早い時期から地域住民主体で自主防災組織活動に取り組んでいる地域と聞いていたのでここを視察することにした。

避難指示のサイレンの吹鳴から訓練が始まって住民たちは、高台にある一時避難場所の音調津定置番屋へ避難が始まった。直接向かう者や予め役割分担があつて、高齢者や一人で行動できない者の住宅へ車で駆けつけ安否確認を行ったり、避難をさせるなどの行動が見られた。消防団員は住民への広報活動や避難者の誘導などキビキビとその役割を果たしていた。

避難訓練が終了して音調津総合センターに参加者が集合し、参加人員の把握を町内会ごとに行っていた。参加人員は100名以上で高参加率だと言っていた。

消防団員は備蓄倉庫に収納している資機材を展示して、エンジンで動く発電機、照明器具、除雪機、テント、毛布、非常用食料等の点検や始動訓練をしていた。

音調津地区は岩肌で囲まれた海岸沿いで、台風や低気圧による高潮や津波が影響する地域、ここを通る国道336号線はそのたびに通行止めになる。いわゆる陸の孤島となる。こういう地域事情もあつて地域として住民同士の繋がりが強いのだ。防災組織が出来たのも必然だったのかもしれない。

訓練状況を説明していただいた、消防分団長の上野さんには大変お世話になった。

この方は地区のリーダーとして消防団活動を兼ねて防災にも力を入れて取り組んでいる方だ。

団員の装備を見てみると、活動服にライフジャケット、ヘルメットには照明ランプ、一人一台の携帯無線を装備して、団員の士気は非常に高かった。

帰り際に広尾町の北海道地域防災マスターで十勝防災マスターネットワーク代表の青木さんに誘われて村瀬町長と懇談する機会が得られた。消防庁が救助資機材搭載車両など防災資機材を無償提供することが、音調津地区の防災活動が評価されて決まった事で災害時以外の火災での消防力も図られるなど、広尾町が防災に取り組む姿勢に触れて、充実したハードとソフト面に力を入れていると感じた。

出来るならば早い時期に、各地域において防災組織が立ち上がり、防災活動を通じて被害を少なく出来る取組をしてもらいたい。

(北海道地域防災マスター 松本英俊)